

ほし 彩星だより 第69号



若年認知症家族会・彩星の会会報 平成26年9月17日

〒160-0022 新宿区新宿1-25-3-302 TEL 03-5919-4185/FAX 03-5368-1956 E-mail:hoshinokai@star2003.jp

巻頭言

優しい人の集まり
～久しぶりの定例会に参加して～



彩星の会世話人 M. A

平均寿命がまた伸びたそうである。でも、めでたさも中ぐらいになりというところだろうか。若年認知症を配偶者に持つ家族にとっては関心外の出来事ではない。

半年間定例会を欠席していた。昨秋グループホームにいた妻が誤嚥性肺炎になり、東京ERに入院し、快癒したがホームに戻ることを拒否され、やむなく療養病床型病院に入院させた。挙句、今度は私が治癒不能の癌になってしまった。そして6月になり、妻の嚥下が難しく娘と話し合っただけで経鼻チューブの栄養剤投与を選択してしまった。いつの日か妻を看取る見送ることだけを生きる目標としてきた私にとっては心中穏やかではなかった。自分を納得させるのに時間がかかった。そんなこんなで定例会に顔を出す気にもなれなかった。

ところが、今月の彩星たよりの定例会案内の助言講師陣（宮永先生・比留間先生・勝野先生・小野寺先生・木舟先生）を見て驚いた。彩星の会の恩人とも言うべき人がずらり列挙されていた。この酷暑の中、悩み多いはずの会員たちは集まってきてくれるだろうか？そんな僭越な心配があっただけで重い腰を上げて出席した。

10年余り前、まだ認知症という言葉がなくて若年性はボケ（ボケ症状）と言われていた頃に、情報がほしくて彩星の会を頼って上京したことを思い返した。同病相哀れむとか傷を舐め合うとかは好きでは無い。今後辿るであろう道を示唆され、経験を話し、失敗を話す。肩の荷物をひと時下ろしてみんなの優しさに触れる。それで充分安息を得られた。

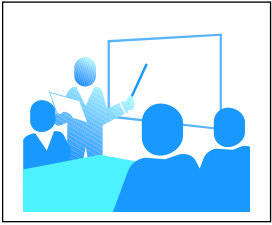
そんなことを思いながら、定例会の部屋の後ろの席で新しい会員と講師の先生方との熱心なやり取りを聞いていた。介護初期の人にとっては助言がすべて知識となる。参加会員がこの暑さで少ないのはやはり気になったが、参加会員からは「このような会を是非また開いてほしい」「このような会を期待していた」等の声を聞き、是非今後も忙しい先生方をお願いして頂くよう、代表、世話人の方々にお願いしたいと思った。その後の活発なグループ討論、そして閉会後の二次会も有益な愚痴相談会となるのだ。

本人会をのぞくと、皆さん仲良く西瓜を食べていた。持参したハーモニカで唱歌を何曲か吹く。サポーターの皆さんご苦労様。つい顔みしりを探す。そして、やはり男性介護者の現在が気になる。

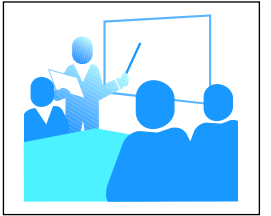
配偶者本人の異食、頻尿、便秘や行動の穏ならざる様子、それに疲れ果てる男性介護者の話を見聞きして、2年前、3年前を知っているだけに、それぞれの覚悟は見えるものの、やるせない気持ちになる。病状が進行してくると本人を連れてくるのも一苦労である。でも、日頃の出来事の悩みを本音でしゃべれるのはやはり会員しかいない。理解、助言が飛び交う。

熱い空気に触れてよかった。本当はそれとなくお別れに来たつもりであったが、やはり動ける間は定例会に参加しなきゃと思った。





7月定例会報告



家族交流会

7月27日猛暑の中、首都大学東京荒川キャンパスで開催された定例会には約56名の会員が参加。宮永先生はじめ比留間先生・勝野先生・小野寺先生・木舟先生らが熱心に会員からの質問にお答えくださいました。内容については多岐にわたるため、今回ここで紹介することはできませんが、以下はその後に行われたグループ交流会のメモ（一部）です。

*女性（アルツハイマー）

55才で発病（現在70才）H21年より入院。去年3月まで歩いていたが車椅子生活となった。1年4か月、立とうとしない。歩こうとしない、歩かせたい。

*女性（アルツハイマー）

56才～8月で62才。コーラスは送り迎え、車の運転止められた。今は運転しない。意欲も無い。家の中でトイレ、風呂、わからない。一回りして散歩

*男性（アルツハイマー）

父65才で発病。現在68才。在宅。デイ週2回。病院月1。常時付き添いが必要と言われてしまった。ケアマネにどこまで聞いたらいいのか？予算は？と聞かれて困惑している。

*男性（アルツハイマー）

20年近く入院。10年老健から病院へそのまま。

*男性（ピック）

（H8～H19）12年間 H15年より8年間入院、12年のうち10年はフルタイムで仕事しながら最後は看取れたのでよかった。11年10月宮永先生との出会い。当時情報が無かった。差別と偏見との中暮らしてきた。薬（アリセプト）も無かった。

引越について

地域的なことを考え（地域で差がある）引越しも考える。本人にとってよいのか、新しい場所でなじめるか不安。家の間取り（トイレ、風呂）などがわからなくなるのではないか・・・など

名義について

生命保険、貯金など契約者でないと変更がむずかしい。今後の事を考えたらどうしたらよいか。

近所へ知らせるか、知らせないか

病名をまわり（近所）に言えない

その他

- ・BPSDがある
- ・話が通じず、言葉が理解できない。
- ・抗鬱剤を飲んでいて。アルツハイマー病と認定されるまでわからなかった。

ご本人交流会



本人交流会は、開催を危惧された猛暑の中、サポーター役の世話人さんたちの心配をよそにいつものように続々集まって始まりました。

新人3人を含む計12人。

始まりは「ほし市場」の野菜販売仕込み作業から。今月はさすがに夏野菜が豊富。キュウリ、ナスなどは数個ずつ袋入れができたが、カボチャはそうはいかず。以前の冬瓜のときのようにご本人さんに切り分けてもらおうとしたが、男子厨房に入らずの様で、切るコツがわからず歯が立たない！？そこで、世話人女性の出番。手際よく切り分けていただきました。（写真上）



作業が終わってから皆でテーブルを囲み、冷えたビールとカクテルで乾杯しました。（残念ですがノンアルコール）



予定では、夏のビーチをイメージしたダンスミュージックに乗って、ゴーゴーダンスで盛り上がるはずでしたが、男性が多かったせいか、アルコールがなかったせいか、みなさんちょっと照れてしまったようで誘いに乗ってくれず、

大騒ぎはできませんでした。飲み物とお菓子をゆっく

り味わっておられました。

一服した後はスイカ割り大会。昔やったことを思い出したのでしょうか、手拭いで目を隠したら怖いかなと心配しましたが、ギャラリーの掛け声、声援に応えるようにスイカに近づいて棒を振り下ろしました。空振りで残念、交替。(写真前頁)何人目かのかたが「えいっ！」と下ろした棒の先に「コツン」とあたって細かいヒビが入って、これは皆で切り分けていただきました。(ちょっと小さいスイカでしたが、氷水で冷やしておいたからとても冷たくて甘くておいしかった！)

実は、このスイカ割りにはもう一つドラマがありました。1つ目のスイカは目隠しを取り外した若い男性のかたがツカツカト歩み寄り、ちから一杯振り下ろした棒の威力で赤い汁は四方に飛び散り果肉は粉々になってしまったのです。(世話人の方々は何事もなかったかのようにササッと片づけて、もう一つあった予備のスイカを置いてスイカ割りを続行しました)

彼の動作がとても勢いよく激しかったので、一瞬その場が凍り付いたようになりました。私自身はこのことをどう解釈したらいいのかわからないので、今いろいろな人に教えてもらっているところです。

「ほし市場」は今回品数が少し多目でしたので「完売しないとお家に帰れない！」と言いながら焦っていましたが、皆さん持って帰るのも大変なのに協力してくれてほどなく「売り切れ！」と拍手で終了することができ、ホッとしました。

「この野菜は何というの？」と聞かれ少々困り顔のIさん、「お釣りはいくらになりますか？」と奥様に聞かれゆっくりだが正確に手渡すMさん。次回もよろしくお願いします。(S)

二次会交流会



定例会終了後、まだまだ暑さが残る中4:30頃からいつもの『日暮里ザ和民』で二次会が行われました。24名の方が随時集まり、久しぶりにYさんも奥様を車椅子にのせて参加されました。

座るように促されても立ったままなかなか座らない奥様や、ご本人に一口ずつ料理を食べさせる方等、自宅での様子が縮図になってこの狭い空間に繰り広げられていました。

介護者も、ご本人も、皆楽しそうにいつものように賑やかな時を過ごしました。

終了後、16名が上階にあるカラオケ店に流れ込み皆疲れ知らずに、気分よく歌っていました。延長を願い出たが、後がつかえているとの事で、それぞれ帰宅しました。(お)

彩星の会にはホームページがあります

会員の皆様は見て頂いているでしょうか。

「彩星の会」で検索していただくとトップに出できます。ただ、誠に申し訳ありませんが、これまで更新が遅れていました。5月の定例会の時、新会員の方からご指摘がありました。「彩星の会に参加しようと思ったけれど、ネットで検索すると更新がされていません」「活動がお休みなのかと思っていました」とおっしゃっていました。大変申し訳ありませんでした。若年認知症の介護をされている方は、まずインターネットで検索して、病気のこと、介護の仕方、制度を知ろうと思う人が多いです。

インターネットは、知識を得て、学び、悩んでいる人たちの手助けになるツールになっています。相談できる家族会を求めている方が、とてもたくさんいらっしゃいます。ホームページからの発信が遅れ「彩星の会」に対する期待が失われていました。これからはホームページの充実を目指したいと思いません。

ただ、私たち世話人はすべての人が介護家族で、専門知識もなくインターネットについては、素人同然です。ぜひ皆様のお力を頂ければと思います。

ホームページの中に、「活動ブログ」のコーナーがあります。まず、ここを充実していきたいと思っています。日々の活動を写真を入れてアップしていきますので、ぜひご覧ください。

「彩星の会」の会員の方には、若年認知症のご本人、介護家族の立場として、取材が入っている方がいます。何気なくテレビや新聞を見ていて、知った顔が出てきて驚くこともたびたびです。テレビ、新聞、雑誌等々で取材をされた方は、ぜひお知らせください。また、これまでマスコミに伝えられたことがある方もお願いします。

このことが、同じ若年認知症で悩み苦しんでいる方にどれほど力を与えるかできません。会員の皆様の中には、インターネット上で、ブログ、ホームページを運営している方もいらっしゃると思います。これも同じ苦しむ仲間を勇気づけることです。タイトル、URLを知らせてください。会員のコーナーを作り、リンクします。もちろん、ネット上のネームにして、本名を出すことはしません。講演をする予定のある方、地域で認知症相談をされている方はいませんか。地元で認知症カフェをされている方、家族会を立ち上げている方。ぜひお知らせください。

ご本人の声、介護をされている方の嬉しかったこと、伝えたいこと、悩み、相談したいこと・・・皆さんと共有したいと思いません。

彩星の会を盛り立てるには、会員の皆様のお力がなければできません。ご協力をお願いいたします。情報はメールまたはFAXでお願いいたします。

彩星の会ホームページ

<http://www5.ocn.ne.jp/~star2003/>

彩星の会 FAX: 03-5368-1956

E-mail: hoshinokai@star2003.jp

人 今 人

『あの日も家族が心を一つにしていた』

東京都在住 N. I

本人 : 夫 (故人) 62 歳
介護者 : 妻、長男、次男

2003 年、会社で仕事のミスが増え、受診を勧められて3か所受診。東大病院で検査を一通り受け、髄液中のタウ蛋白の値が大きいのでアルツハイマーに移行する可能性が高いとの診断を受けた。2005 年からデイサービス、ショートステイを利用しながら在宅で介護。2013 年 12 月逝去。

2013 年 6 月 19 日、夫はショートステイ先で倒れ入院した。脳の萎縮によるてんかん発作だった。主治医は脳外科の医師で積極的に治療をしてくれた。てんかんは投薬で治まったものの、急性胆嚢炎を起こし、血液の細菌感染、肺炎等を併発。抗生剤を変えたり、輸血等をしたり治療を続けた。口からの食事が出来ず、初めは経管栄養。合併症のため胃ろうは断念、高カロリー点滴頼みとなった。

9 月に入り血圧低下して容態が急変。気管切開して人工呼吸器を付けた。腎臓の働きが悪化し 2~3 日に 1 度人工透析が必要となる。所謂多臓器不全となった。一進一退に思えたが、容態は上向かず、急変から 3 ヶ月、懸命な治療の甲斐無く 12 月 14 日、彼は旅立った。

昨年春頃から夫は足元がふらついて来ていた。2 階で寝ていたのを 1 階で寝られるように、そのショートステイ中に家の模様替えをしようと思った矢先の事だった。

夏になったら猛暑の間は空調の効いた病院にいればかえって安心だと思えた。毎日、時には 1 日おきに面会に行く。行き帰りの道すがら、空を見上げて写真を撮った。晴れていたら入道雲を、雨の時は灰色の雲を。病室の窓から見える銀杏並木。鮮やかな緑だったのが黄色くなって行く。そのうち散って年を越すのかな・・・(越せるのか?とも)

夫は、殆どぼんやりと視線が空を切っていたが、時々こちらを見て「おっ？」という表情をしてかすかに笑うことがあり、そんな時は涙が出る程嬉しかった。重篤な患者さんばかりの病室、面会時間も短めにとされていて家族に出来る事は限られていた

ので、せめての思いで顔や髪、地肌を拭いた。イヤホンで音楽を聴かせてあげたり、話しかけたり、本の朗読をした。12 月には耳元でクリスマスソングを歌ったりした。クリスマス、お正月、やがて来る 1 月 9 日 63 歳の誕生日を一緒に迎えたいと思った。親しかった友達や親戚にも面会してもらった。たとえ認知症で自分の状況を理解しているかどうかわからなくとも、純粋な感覚は残っていると信じて話しかけたり励ましたりしたのだった。

私は家にも落ち着かず、仕事や用事で面会に行けない日は「1 日位行けなくても彼は大丈夫」と思っても、気持ちは沈んだ。こんな時、何を思って何をして過ごしたらいいのか・・・当然眠れない夜もあり苦しかった。言っても仕方がない事や、ああすれば、こうすれば良かったという後悔の念。苛まされる苦しさを、支えてくれる人達に聴いてもらう日々だった。家族会、介護友達、ケアマネージャー、デイサービスやショートステイの施設職員さん、友人達、親兄弟、誰でもどんな言葉でもそばにいて話をして、聴いて欲しかった。「何も出来なくて」と言われても、聴いてくれるだけでどれだけ心強かったか。そうやって時を過ごす事で不安から逃れようとした。

父親の成年後見人を担ってくれた長男は、医師の説明をきちんと記憶し冷静に理解して自分の感情を抑えていた。心労大きかっただろう。春には 1 度倒れて入院もした。学生だった次男は就活の大事な時期でもあった。父親と話が出来ず不安だっただろう。

こうして 2 人の息子達には、父親の病気を受け入れ、介護してもらった。若いのに、と不憫に思ったが、今はとても感謝している。彼らの「お父さん」への思いは大切な宝物だ。

あの日も家族が心を一つにしていた。夫が目を閉じる瞬間まで、家族皆一緒にいて手を握った。彼が寂しくないように。安心して旅立てるように。だから今も彼の魂はいつも私達と一緒に、この家に居てくれると思える。

寂しいけれど不幸ではない。彼のおかげで温かな家庭を築けた事に感謝して暮らし続けている。



行ってきました北海道！
～北竜町ロードレースを見学して～



8月24日（日）、北海道空知郡北竜町のヒマワリ畑で開催された、北竜町商工会議所・体育協会主催の『北竜町ロードレース』に、彩星の会顧問の宮永先生、干場元代表らが参加し、3キロコース～10キロコースを力走しました。

宮永先生（上写真左）と干場元代表（写真中央）の後方を走っているのは、北竜町の若年認知症家族会「空知ひまわり」の会員とサポーターに囲まれながら3キロマラソンを完走した認知症ご本人の飯田貞光さん。

「空知ひまわりの会」の皆さんの若々しく元気に走



＜招待ランナーの赤羽有紀子さんとハイタッチする飯田さん。一緒に走る若年認知症家族会「空知ひまわりの会」会員の皆さん＞



＜彩星の会会員だった中村さん（中央）も小澤代表と一緒に応援＞

っている姿にとっても感動しました。ただ見ているだけの自分を少し恥ずかしく思いました。走り終えて清々しい様子の皆さんの姿を見て、来年は自分も挑戦してみようかなと、ふと本気で思ってしまいました。

大会終了後は家族会主催のバーベキューにご招待いただきました。

＜「空知ひまわりの会」田中副代表さんと宮永先生と佐野町長＞



北竜町農協の天井の高い広場に炭火の網焼き台がたくさん設置されて、佐野豊町長さんはじめ午前中に走ったばかりの家族会副代表の田中さんはじめ会員のみなさん、事務局のみなさんがホタテ、エビ、肉、シシャモ、ジャガイモ、ナス、とうきびなどなど、たくさんの地元でとれたばかりの海山畑の幸を用意してくれていました。

それらを焼きながら「ゆめピリカ米」でにぎったというおにぎりをいただいた時にはもう「至福の境地」。これまで食べた中で一番おいしいと思ったおにぎりの味でした。

「彩星の会の家族会旅行、今度は是非ここ北海道北竜町にしましょうよ！」と事務局の篠崎さんが言いました。そうね、みなさんと来れたらどんなに楽しいでしょう。なんとか実現できないかなあ、と思いを巡らしながら帰路につきました。

言うまでもなく、私たちは？kg重くなって帰ってきました。

北竜町でお世話になりました特別養護老人ホーム永楽園園長の杉山さん、家族会事務局長の中村さんそして若年認知症家族会「空知ひまわりの会」のみな様、本当にありがとうございました。

また来年も交流できますよう、彩星の会の活動の方も元気に頑張りたいと思います！

（彩星の会代表 小澤礼子）

ごあいさつ



彩星の会会員のみな様こんにちは！
北海道北竜町の「家族会」と「ロードレース大会」
の紹介をさせていただきます

若年認知症家族会「空知ひまわり」
事務局 中村道人



若年認知症家族会「空知ひまわり」は 2007 年 11 月 11 日に設立しました。東京からの若年認知症ご家族 1 組が北竜町に転入された事がきっかけでありました。

北竜町は北海道の北西部に位置し、人口 2,200 人の農業を中心とした純農村の町で年々過疎化が進行していますが、今年で開町 122 年を迎えました。

当時、東京「彩星の会」代表でありました干場功氏も北竜町出身であり、折しも同じ時期に現職の北竜町長でありました一関開治氏が若年性アルツハイマー病を公表して辞任をした時期でもありました。

まだまだ、若年認知症の病気が社会に知れ渡っていない時期でもあり、一関氏自らがテレビや新聞等に出演し、また、病気の記録を本として発行した時期でもありました。

「空知ひまわり」は、発足時 1 組の当事者と 23 名のサポーターでスタートし今日を迎えています。(現在、当事者家族 4 組、サポーター 45 名) 毎月の例会を基本として、様々なプログラムの支援(太鼓、陶芸、卓球など)を行い、それぞれサポーターが責任をもって、根気よく何度も何度も繰り返しながら当事者の方への支援を行っています。

また、年間行事の中では「旭山動物園ツアー」「ボウリング大会」「北商ロードレース大会」「新年会」「忘年会」などなど、数多くの行事も行っています。

今回、平成 26 年 8 月 24 日に開催されました「第 50 回北商ロードレース大会」の記念大会には、彩星の会の小澤代表、篠崎事務局様をはじめ、若年認知症サポートセンター宮永和夫先生、横浜、埼玉、名古屋をはじめ、北海道内からも砂川市立病院内海久美子先生、大辻誠司さん、「北海道ひまわりの会」、「東胆振ひまわりの会」の皆様にもご参加を頂き、盛会のうちに終了することが出来ました。本当にありがとうございました。

本会の当事者もレース(3Km)に参加し、多くの方のご支援を頂き、見事にゴールをしました。今回のレ

ースにはエーザイ株式会社さんからオレンジのTシャツの寄贈を賜り、会場内に華を咲かせて頂きました。レース会場は「ひまわりの里」で作付け面積日本一のひまわりが咲く場所でしたが、今年は天候不順なこともあり開花が早まり、残念ながらピークを過ぎた大会となりましたが、記念大会でもあり約 500 名のランナーが走り抜けていきました。

レース後には、会場を移動して「交流会」を開催し、若年認知症に関わる関係者の皆様約 60 名がバーベキューで舌鼓をうち、ビールを片手に懇親を深めたところであります。

あいにく雨にもあたりましたが、当日は早朝よりご支援、ご協力を賜りましたことに深く感謝を申し上げる次第であります。

今後とも、多くの方のご支援、ご指導ご鞭撻を頂きますよう、切にお願い申し上げお礼とさせていただきます。ありがとうございました。

「いい記事見つけた!!!」

月一度、参加しております家族会(ひだまり)機関紙の「世話人のひとりごと」欄に、下記の文(一部抜粋)が記載されておりました。

“介護生活”

意味はともかく、4つの漢字がどう見ても楽しくなさそう。

「介護」と「生活」の間に文字を入れてみてはどうだろう。

「介護のある生活」……いまひとつ!?

「介護もある生活」……あっ、

この方がいい!

これを読んで、われわれ介護者は、二つの生活を体験していると言えるかもしれない。

得しているんだと思える介護者は、もうすでにワンランク上のステージにいると思う。



龍 平四郎

相談事例紹介（#1）

龍平四郎

NPO法人人間環境活性化研究会（HEARTの会）の医療相談室に相談した内容を紹介します。
少しでも皆様のお役にできればと思います。

質問

初診ATD、4年後FTLD（SD）現在はLPCと思います。

「家に帰る」の帰宅願望は以前からあり、散歩（約往復30分ぐらい）することで解決しています。

暑い、寒い、雨、雪など天候に関係なく要求がでます。

今夏の例ですが、午前、午後とも5回ずつ、計10回の散歩。

不思議なのは、帰宅してソファーに掛け、5分としないうちに「家に帰る」がでます。

介護者の疲労過多のときは苦痛の連続です。

今回のご相談は介護の方法ではなく、本人が言う「家に帰る」とは、どういうことなのか知りたいと思います。

ご教授をお願いいたします。

回答書

2014年 8 月 26 日

質問者：MY殿

医学博士 灰田 宗孝

お尋ねの件下記の通り回答致します。

記

「家に帰る」という症状は、認知症特有の記憶障害に起因します。つまり、最近の記憶から失われていくため、現在住んでいる家が見慣れない家になってくるのです。記憶にあるのは、ご自分の産まれた家や、若いときに住んでいた家の雰囲気です。従って、帰りたがっている家はその過去の家です。本人は何でこの見慣れない家に居るのか、理解できないで居るのです。病気が進むとご主人の顔の認識も怪しくなります。そうすると、見慣れない家で見慣れない人と暮らしている状況となっている可能性があります。その場合は結婚した当時のお二人の若いときの写真を見せて再認識させてください。

ご家庭に過去の家の写真はありますか。古いアルバムなどを一緒に見て、現在に至るまでの記憶の糸をつなげる試みが役立つ事があります。奥さんの子供の頃の写真、両親の写真などがあれば、それを見せることで落ち着くこともあります。

更に、「家に帰る」と言い出す原因に、現在の家の居心地が悪いと感じている場合があります。良くあるパターンとして、奥さんが同じ事を何度も言うのに対し、ご主人が注意をするさい、叱ったりすると、奥さんは叱られた内容は忘れるのですが、叱られた表情などの印象は忘れないので、いじめられているような感じを持つことがあります。そうすると、この見慣れない家から帰りたいたいと言い出すのです。

以上、一般論からの説明になりますが、参考になりましたでしょうか。



お知らせ

■9月定例会

日時：9月28日（日）13：00（受付：12：30～）
会場：首都大学東京荒川キャンパス（別添地図参照）
内容：①家族交流会 『ミニ講演会』と質疑応答
 講師：彩星の会世話人 三橋良博さん
 テーマ：「認知症の介護体験とサービスの利用」
②本人交流会 テーマ『私はだれでしょう？』

（「新米でおにぎり」／彩星カフェ・サロン／「ほし市場」で季節野菜の販売）

参加費：お一人500円

申し込み：ご本人同伴のかたは、人数把握のため9月26日（金）までに必ず事務局にお知らせください。

* 本人交流会の時に使う若い頃の写真を持ってきて下さい。（裏に写真の年齢と名前記名）定例会終了後に写真はお返しします。出来れば早めに事務局に送っていただく都合がよいのですが。無理でしたら当日直接でもいいです。

電話番号：03-5919-4185

■10月18日（土）10:00～上智大学四谷キャンパス『介護文化祭』参加予定

■10月26日（日）10:00～新宿区立障害者福祉センター『センター祭』出店予定

* お願い* バザー出品物を募集しています（事務局までご送付またはご連絡ください）

■只今受付中！

彩星の会『秋の旅行』11月15（土）～16（日）（千葉県房総白子温泉泊）

費用：一人20,000円（昼食代、有料道路料金、観光入場料、宴会代等諸経費込）

申し込み：事務局まで電話・fax・メールでお申し込みください。定員30名。（残りわずか！）

★事務局よりお願い★ H26年度会費のご納入をよろしくお願ひします！！！！

■ご相談・ご入会は 彩星の会事務局 までご連絡ください*

【相談日】月、水、金 10時30分～17時

電話：03-5919-4185 FAX：03-5368-1956

携帯電話：080-5005-5298（相談室：干場）

e-mail：hoshinokai@star2003.jp HP：<http://www5.ocn.ne.jp/~star2003>

■年会費 家族会員5,000円 賛助会員A5,000円/B3,000円/C10,000円

■お申込み（ご入金）は下記振替口座宛てにメッセージを添えてお願いします。



郵便振替口座番号：00170-7-463332 加入者名：若年認知症家族会・彩星の会

編集後記

今年の夏も大変な異常気象で、大雨、土砂崩れ等で多くの貴重な命が失われました。助かった方々も避難を余儀なくされ、まだ避難所に多くの方が不便な生活を強いられています。その中には介護を受ける方、する方がいらっしゃるのではないかと思います。出来るだけ早く、元の生活に戻れるようにと願わずにはいられません。何事もなく普通に暮らす事の難しさ、大切さを改めて考えさせられました。（れ）